

震災を機に生まれた 放課後児童クラブ

船本厚子

岩手県大船渡市 放課後児童クラブうみねこキッズ 指導員

二〇一二年、岩手県大船渡市でうみねこキッズを開設するにあたって厳しい状況がつづいていたとき、全国の皆様からたくさんのご支援をいただきましたことに、心より感謝いたします。誌面をお借りしてお礼申し上げます。

うみねこキッズをつくろうと動きはじめたのは震災から四か月後の夏でした。小学校の下校時間、津波の影響でひしゃげたままの形のバス停にうつむいて立っている小学生がいました。その子の視線の先にあるのは、数か月前まで家があったはずの場所が瓦礫の山に変わりはてた光景です。

被災したことにより、学区外の仮設住宅から通学する子どもや親戚の家からバスなどで通うケースが増え

ていました。下校時間になると、校庭は迎えに来た自家用車で混みあうようになつていましたが、核家族や共働きの保護者をもつ子どもは、雨風にかかわらず、自力で下校しなくてはなりません。震災前には三分おきに通っていた路線バスでしたが、道路が壊滅したことにより不通になり、二〇一二年七月頃にやっと、一日に四〜五本にまで復旧して

いました。「何時間もバス停で待っている間、この子どもたちはどんな思いでいるのだろう」。そう考えただけで胸がしめつけられるような思いがして、「保育士の資格をもつ私がいかにとくとしてあげられないだろうか」と考えるようになりました。

震災から四か月後といえは、まだライフラインが復旧したばかりという地域もありましたし、生活を元ど

おりにするのに精一杯の時期でした。小学校の校舎も一階部分が被災していましたが、町が壊滅状態で土地も貸家もなく、場所探しは困難をきわめました。

開設に賛同してくれた保護者仲間と何度も話し合いの機会を設けながら、地域の公民館などにも交渉をこなし、貸家が見つかるまでの間、公民館の一室を間借りさせていただけることになり、二〇一二年四月にはなんとか開設することができました。

しかし、公民館を利用する方々に迷惑をかけたいため、子どもたちに静かにするようお願いかせ、保育に使用する用具一式を指導員が毎日持ち込みながらの日々にあつては、子どもたちにたくさん我慢をさせてしまいました。

幸い、知人の紹介で、学校から一キロメートル離れた場所に部屋を借りられることになり、子どもたちはのびのびと過ごせる場所ができました。下校時は指導員が引率しました。雷雨や雪の日、そして夏休み中の学校のプールまでの往復は、子どもたちの安全を守るために大変、気がつかれました。

その後、日本赤十字社のご支援で学校敷地内に施設が建設されることが決まり、ようやく今年の六月に現在の施設に引越すことができました。

ただし、課題も残されています。施設が建設された場所は浸水区域であり、災害に対する緊張感を常にもつていなければなりません。震災から二年以上がたった今でも、小さ

な地震があるたび、あの日の状況がよみがえり、大人でも冷静さを失いそうになることがあります。どんなときでも迅速に子どもたちを安全な場所に避難させるためには、夜間や冬季など、さまざまな状況に対応した避難訓練を重ねていかなければなりません。また、子どもたちにも自分の身を守る術も教えていきたいと思つています。そして、そんな緊張した空間のなかにも、子どもたちが心からリラックスして過ごせるよう、私たち指導員も努力していきたいと思ひます。

これから未来へ羽ばたいていく子どもたちが、感謝の気持ちをお忘れず、「今度はいつか自分たちが世の中に恩返しをするのだ」という希望を持ってくれるよう、私も毎日、全力で保育にあつていこうと思ひます。